

あなたがいる わたしがいる 未来がある

(平成24年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ)

第1部 基調講演

大正ロマン・昭和モダン ～いわきの文学の世界～



講師
吉田 隆治
(よしだ たかはる) さん
[いわき地域学会代表幹事]
[いわき明星大学非常勤講師]

大正時代から昭和にかけて、いわきの詩的風土が広く、深く耕されました。詩人の山村暮鳥がいわきの詩作のさきがけとなり、以後、三野混沌、猪狩満直、草野心平

らに引き継がれました。

山村暮鳥の影響から、のちの比佐邦子、斉藤千枝、吉野せいなどの女流文学者が活躍し、現在のいわきにおける文学繁栄につながりました。

第2部 市民活動報告

男女共同参画に関する 各団体の市民活動



石田 冴子
(いしだ さえこ) さん
[国際女性教育振興会いわき]

スウェーデン王国から学んだこと—石田さん

スウェーデンは女性が元気の国です。育児休業取得率が男女比で2:8で、2020年には5:5になると予想されます。企業や政府における男女平等及び女性の官僚進出に大きな変化がみられ、男女共同参画の意識は高く、管理職は女性が70%と男性を上回っています。

私たちもいわきの元気な女性になりたいと思います。

私のボランティア活動—矢吹さん

以前から地域まちづくりに参加して、七夕祭り90周年のパンフレット作りや本部アナウンスの手伝いなどをしてきました。地域活動に興味があり、私自身の一時避難の経験で何ができるかを考え、実際に行動しようと思いました。

ボランティア活動で学んだことは、「自分から参加すること」「誰かと協力すること」の大切さです。これからもボランティア活動に参加したいと思います。



吉田 恵美子
(よしだ えみこ) さん
[特定非営利活動法人ザ・ピープル理事長]

災害支援活動に思う—吉田さん

私たちが住むまちの問題を、自分たち自身が考え、その解決のため主体的に行動するため、古着リサイクル活動などを行っています。

3.11以降、災害支援活動に力を入れました。避難生活も長くなると、欲しい物と届ける物とのギャップがあり、全国の支援団体に「今何が必要か」を発信しました。

新しい取り組みとして、風評被害に負けない持続可能な「いわきオーガニックコットンプロジェクト」を立ち上げました。この取り組みで農業も人も元気になれると信じています。

パープルリボン運動について—佐藤さん

DV等の暴力を受けている女性たちを支援し、自立のお手伝いをしています。どんな状況でも暴力を許さない気持ちと、暴力を許さない社会が必要だと思っています。また、新規事業として、DV被害者や避難女性のほか、誰でもいつでも話ができる居場所づくりを始めました。さらに、被災地の女性のために、期間限定でフリーダイヤルでの電話相談も実施しました。

パープルリボンは、女性への暴力根絶のシンボルマークです。このリボンを積極的に活用して、女性に対する暴力を許さない社会認識を徹底させることが大切です。



矢吹 道子
(やぶき みちこ) さん
[東日本国際大学経済情報学部4年]



佐藤 暁美
(さとう あけみ) さん
[いわきふれあいサポート]

男女共同参画基礎講座「こども編」

2012年6月16日(土) / 上遠野公民館



木内 かつ
(きうち かつ) さん
[絵本作家]



あそびの達人がやってくる

被災地支援ボランティア活動



子どもの頃からの男女共同参画の理解を促進するために、遠野地区の小学生などを対象に、「絵本から始まる造形遊び」や牛乳パックで独楽(こま)を作ったり、「でんきをつくってあそぼう」と題して手回し発電機でおもちゃを動かすなど、遊びのワークショップを開催しました。



中西 卓
(なかにし たかし) さん
[でんきの環境塾 塾長]

